

日本心臓血管麻酔学会より、心臓血管麻酔における血液粘弾性検査の使用指針が7月11日に発表されました（詳細は本学会 HP にて）。本学会では、10年以上前から心臓血管外科手術での大量出血・止血凝固障害に対して迅速かつ適切な介入をするためには、**point of care** の可能な血液粘弾性検査の普及が必須と考え、血液凝固管理委員会による **symposium** や **hands-on seminar** を通じて学会員に情報を提供して参りました。当時、私も血液凝固管理部門に所属しており、本学の若い先生たちの協力で日本発の **evidence** も発表しました (Nakayama Y, et al. BJA 114:91-102, 2015.)。

標準的な血液凝固検査に比べて、血液粘弾性検査にもとづいた輸血アルゴリズムは同種血製剤の使用量と輸血患者割合を低下させるという報告は多数あり、この **evidence** は特に心臓血管外科手術領域に強固で、数多くの学会が診療ガイドラインに組み込んでいます。**ASA** では、心臓手術において「血液粘弾性検査」にもとづく輸血のプロトコールやアルゴリズムは標準的な血液凝固検査に比べて輸血量と輸血率を低下することが無作為比較試験によって示されている、との声明を出しています。**ESA** の周術期出血 **guideline** では、周術期血液凝固能の治療においては、「血液粘弾性検査」は標準凝固能検査に優先して行われるべきである、と述べています。さらに、フランスの周術期止血管理部会の **guideline** では、心臓周術期の止血管理における「血液粘弾性検査」の有用性は明らかであり輸血アルゴリズムに組み込まれなくてはならない、と明記されています。

このような状況を踏まえて、本学会では血液粘弾性検査の普及にはまずは財政的な裏付けが急務であると考え、社会保険適応の申請に必要な **guideline** が熱意ある若い血液凝固管理部門委員らによって作成され今回の発表に至った次第です。今後はこの資料を基に外保連に保険適応を申請することになり、近い将来に手術室にて血液粘弾性検査がルーチンに行われる日々が到来すると信じています。皆さん、お時間のある時にこの素晴らしい **guideline** を読んで下さい。これだけでこの分野の全てがマスターできますし、専門医試験の資料としても役立ちますよ。余談ですが、本学会では仕事をしない役員は要らない、との共通認識のもと、委員の人使いがとても荒いです（笑）。Mっ気のある優秀な若手を委員に募集しています。

さて、来る京都大会では、国内外で血液粘弾性検査機器を発売している医療機器メーカー全社が機器展示場に揃います。アムコ社 (ROTEM®)、ヘモネティクスジャパン社 (TEG®)、平和物産 (Quantra Hemostasis Analyzer®)、アイ・エム・アイ社 (Sonoclot®)、アークレイ社 (スポットケムHS®)、フィンガルリンク社 (ClotPro®) の6社です。機器展示場 1F の同じ場所に隣接して集めてありますので、各社のブースを訪れそれぞれの製品の特徴を担当者に質問すれば、将来の機器購入に向けて効率的に情報が手に入ります。ちなみに、平和物

産（20日金曜日）、ヘモネティクスジャパン社（21日土曜日）、アムコ社（22日日曜日）の3社はランチョンセミナーも、アークレイ社（20日金曜日午後3時より）はスイーツセミナーも開催し、血液粘弾性検査機器の情報を重層的に提供して頂きます。

実はこの学会に向けて医療機器メーカーさんに機器展示をお願いしていた頃、多くの担当者様から、日本心臓血管麻酔学会の機器展示では専門的な質問をされる先生方がとても多いのでこの学会の機器展示が一番面白いです、我々の腕の見せどころなんです、と言って頂きました。皆さん、思いっきりオタクな質問をして担当者様との**discussion** を楽しんで下さい。

学会に参加する際には何か1つ明確な目標を持って学会場に行く、ことをお勧めしますが、京都では血液粘弾性検査を完全マスターする、というアイデアも面白いと思います。京都大会はそれが可能な学術大会となっています。